推薦の辞

国立がん研究センター中央病院内視鏡科（呼吸器グループ医師）・看護師・診療放射線技師の総力を結集した待望の実践マニュアルの発刊を心よりお祝い申し上げます。

当院内視鏡センターでは消化管グループと呼吸器グループが，同じセンター内で，共通の看護師・技師チームとともに，切磋琢磨して日々の診療・研究に邁進しております。

1966 年に国立がんセンター（当時）の池田茂人先生によって軟性気管支鏡が開発されました。1966 年といえば私が生まれた年ですが，柳田国男の『ガン回廊の朝』を読むと，呼吸器と消化器の医師達が機器開発や最先端の臨床で切磋琢磨していたことが容易に想像できます。

本マニュアル最大の特徴は，“医師”だけでなく，“看護師・診療放射線技師”すべての呼吸器内視鏡に携わる国立がん研究センター中央病院の職員が一丸となって執筆しており，まさに呼吸器内視鏡を行うすべてのスタッフに必携の書となっている点です。基本的な事項から，最新技術まで，写真やシェーマをふんだんに用いて解説してあり，これから呼吸器内視鏡を始めようとしている研修医・レジデントから，呼吸器内視鏡の専門医が技術や知識を Brush up するのにも十分な内容であることが頁をめくった瞬間にわかります。最新の知見に関してもTOPICS として随所に紹介してあり，我々消化器内視鏡医にとっても興味深い内容です。

責任編集の出雲雄大医師は，風貌は若干強面ですが実際は真面目で熱血漢な医師であり，2012 年より前任の金子部長退官後，新生呼吸器内視鏡チームを牽引している Rising Star です。現在年間 1,000 件近い日本一の呼吸器内視鏡をこなし，かつ最先端の呼吸器内視鏡の臨床を行っており，国内に留まらず，海外からの研修も多く受け入れています。消化管内視鏡同様，診断から治療まで日本，いや世界の最先端をいく呼吸器内視鏡診断・治療学の一端をこの本から一人でも多くの医師に学んでいただければ幸いです。

2015 年 3 月吉日

国立がん研究センター中央病院　内視鏡センター長　内視鏡科　科長

斎藤　　豊